

① 次の(1)〜(2)の文章は、対比関係が乱れています。それぞれの〈修正方法〉に従って、文章全体を書き直しなさい。

(1) 口が笑っているでも目が笑っていないと、それは本心からの笑顔とは言えない。  
 一方、目が笑っていれば、それは作り笑いとは言えない。  
 いわば、目は心の窓なのである。

〈修正方法〉 2文目を1文めに合わせて変える。


●ポイント●

●(1) 目のプラス面を伝えようとしているのですが、2文目の述語(「B」に当たるパーツ)が「言えない」となっており、マイナスの印象を与えてしまっているため、意味が伝わりづらくなっています。「言えない」を「言える」に変えるためにどうすればいいか、考えます。

①(1)  
月 日  
評価  
A B C  
解説は142ページ

①(2)①  
月 日  
評価  
A B C  
解説は142ページ

①(2)②  
月 日  
評価  
A B C  
解説は142ページ

(2) 制服は、自分らしさを出しにくい服装であり、楽しめない。しかし、私服は、毎日同じ服装をするわけにはいかないため、大変だ。

〈修正方法①〉 2文目を1文めに合わせて変える。


〈修正方法②〉 1文目を2文めに合わせて変える。


●ポイント●

●(2) 「1なため」のパーツを抜き、「AはAである」「IはBである」だけでチェックします。  
 すると、「制服は楽しめない。しかし、私服は大変だ」となり、主張のあいまいな文章になっていることに気づきます。  
 どちらかをプラス、どちらかをマイナスにすることで、主張のはっきりした文章になります。  
 もちろん、制服と私服、両方のデメリットを伝えたいのであれば、それも主張だと言えますが、その場合は「しかし」よりも、「一方で」などを使うほうがよいのです。